

この人と30分

ぶらり訪問16

軸組を磨く、育てる

静岡県木造建築工業組合理事長
静岡県木造住宅振興連絡会議会長

望月庄次氏



■プロフィール

昭和7年静岡市生まれ62歳。18才で大工の道に。30年に独立、35年に望月大金工務店を設立、平成4年株式会社に改組。平成元年より会員2,300余名の大工技能者の全県組織静岡県木造建築工業組合理事長、3年より静岡県木造住宅振興連絡会議の会長に。

趣味は、演劇鑑賞、俳句、ゴルフ、ソフトボールと幅広い。大切なものは「健康」、血液型A B。

訪問インタビュー第十六回は、

本県木造建築業界のリーダー望月庄次氏。去る七月下旬、お出掛けの朝一番をぶらり訪問。

お客様の意識変化とは

Q、阪神大震災の影響は？

震災後のプレハブ業界の素早い対応には足元を救われたが、その後多方面からの震災調査結果が公表され、落ち着きを取り戻しています。東海地震を考え「しっかりとした住宅を」の意識が強くなっていること、大手志向が強まっていることが、震災後のお客様の大きな意識変化でしょうか。

我々は今後、長い伝統に培われた軸組木造の素晴らしさと耐震性の高さをわかりやすくPRすることが大切です。

初心に返り、技術を磨く

Q、組合としての対策は？

震災後、県木連や建築士会と連携し、震災調査報告会や大工技能者を対象に耐震補強工事の実務研修会を開催しました。阪神大震災では、これまでの我々の経験では考えられなかったような状況も起こっています。

耐震性向上のため、たとえ一級

技能士といえども、初心に返り施工技術を磨くと共に、他業界とも連携した新構法の研究にも関心を向けることが今後の我々の責務だと思っています。

まず木振連、住宅展を通して

Q、関連業界と連携して

進めることは？

県住宅課の肝煎りで、平成三年関連業界、行政により県木造住宅振興連絡会議（木振連）が設立されました。まず第一に木造住宅に関連するこの横割り組織を活用した現場見学会、研修事業等を通じ異業種間の交流をさらに深め、木造住宅の振興対策を探ることです。

当面の対策として今秋の県住宅展では、軸組木造の耐震を主題に設計、施工、資材等に関係する各業界団体によりテーマゾーンへの共同出展が計画されています。展示会では「安心とやすらぎの木造住宅」を幅広くアピールできるよう全力を尽くしてゆきます。

求められるデザイン力、省力化

Q、各々の業界が、

なすべきことは？

生活様式の変化からくる大壁化、

洋風化の大きな流れは回避できそうにありません。この流れに即した対策が急務です。まずプランニング段階では、設計と施工を分離し、建築士さんにお客様を魅了する新しい木造住宅のデザイン開発をお願いしたいと思っています。

資材供給面の課題は省力化だと思っています。プレカット、パネル化など現場施工が簡便になる加工技術や部材への要求は、今後ますます高まってくるでしょう。

以上が、木造建築業界から設計、木材の両業界にお願いしたいポイントです。

勇気を持つて、大胆に

Q、軸組木造の将来は？

木造住宅に住みたい人はたくさんいます。その願いをかなえてあげたい。木材業界には良質な木材を出していただき、我々は伝統にこだわることなく、勇気を持つて、大胆に軸組木造を発展させてゆかねばなりません。

軸組木造を守り、育てることは、停滞する国内林業を蘇らせることにも通じると信じています。

（文責 編集室）